

# 課題名：交信かく乱防除技術の広域導入等による ヒメボクトウ被害の根絶

## ねらい

ナシの主力品種「幸水」「豊水」の老木化による樹勢の低下、夏秋季の高温干ばつ、冬期の温暖化などの気象要因、更に萎縮病やヒメボクトウなどの枝幹病害虫による被害などにより、ナシの生産量は減少しています。

枝幹害虫「ヒメボクトウ」については、大学、研究機関とともに平成23～25年度の3カ年間「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」で「複合的交信かく乱防除技術」を現地実証し、平成26年度には、農薬メーカーと共同で広範囲での自主試験を実施しました。

今年度、対象薬剤（交信かく乱剤）が登録されたことから、この技術に加えて、伐採とバイオセーフ等の生物農薬を併用したIPM(総合的病害虫管理)活動を補助事業を活用して広域で実施し、ヒメボクトウを地域から根絶する防除活動の基盤を構築します。

## 活動地域・対象

地域：鳴門市、松茂町、藍住町、板野町、北島町  
対象：ナシ栽培農家（JA大津松茂、JA徳島北、JA板野郡）

## 普及活動の目標

- 1 交信かく乱防除技術の広域実証ほ 50ha
- 2 薬剤防除(バイオセーフ・フェニックスフロアブル)の実施農家数 40戸
- 3 縮伐、伐採の実施農家数 40戸

## 目標に向けた活動概要

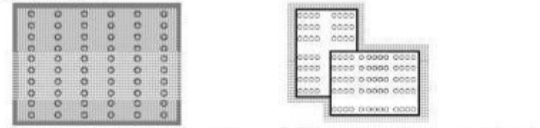
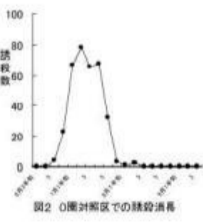
- 1 地域の生産組合等が主体となって、交信かく乱防除技術の広域実証を行いました。
- 2 講習会等により薬剤防除(バイオセーフ・フェニックスフロアブル)の技術指導及び被害樹の縮伐、伐採を推進しました。



ヒメボクトウの交信かく乱剤の設置

### ナシのヒメボクトウ対策

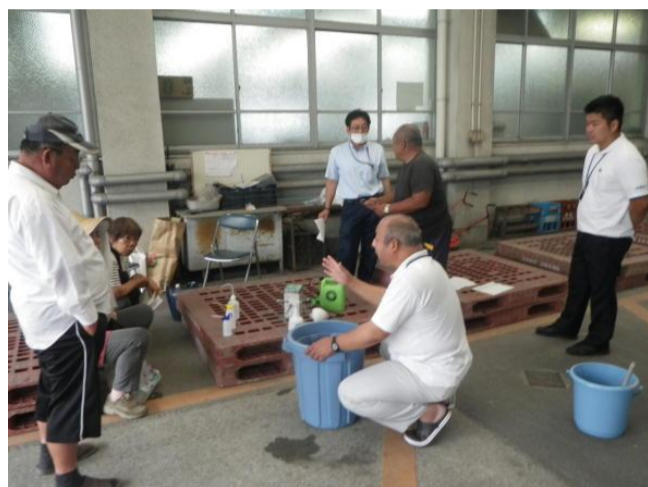
2014.6.13  
高度技術支援課

- (予防と被害軽減)
1. 交信かく乱剤の設置 (ボクトウコンH)
    - ① 10a 当たり 100本を設置してください。
    - ・なし樹は3m×5mの約60本/10a 植えが多いと思います。
    - ・1樹当たりディスペンサー1本を設置するとともに、独立なし園の場合は、なし園の外周部を密に設置してください。
    - ② ナシ園が隣接している場合は、一体と見て、外周部を密に設置してください。
- 
- ③ 6月下旬には成虫が発生してくるので、6月中旬には設置を完了してください。
- (初期対策と予防)
2. フェニックスフロアブルの散布
    - ① 食入初期(7月下旬頃)に寄生部へ十分散布する。
    - 登録：4000倍(200～700L) 前日/2回
- 
- 図2-0 圃場別でのヒメボクトウの発生状況
- (被害樹対策)
3. バイオセーフの樹幹注入
    - ① 梅雨期、秋雨期等の少雨あるいは曇天日に木くず排出孔を中心に薬液が滴るまで散布又は樹幹注入する。
    - 2500万頭(約10g)(希釈液量25L) 幼虫発生期/
- (甚被害樹対策)
4. 樹幹の甚発生部分の切り落としの励行
- ※以上の4点で、地域からヒメボクトウを早期に撲滅しましょう!!

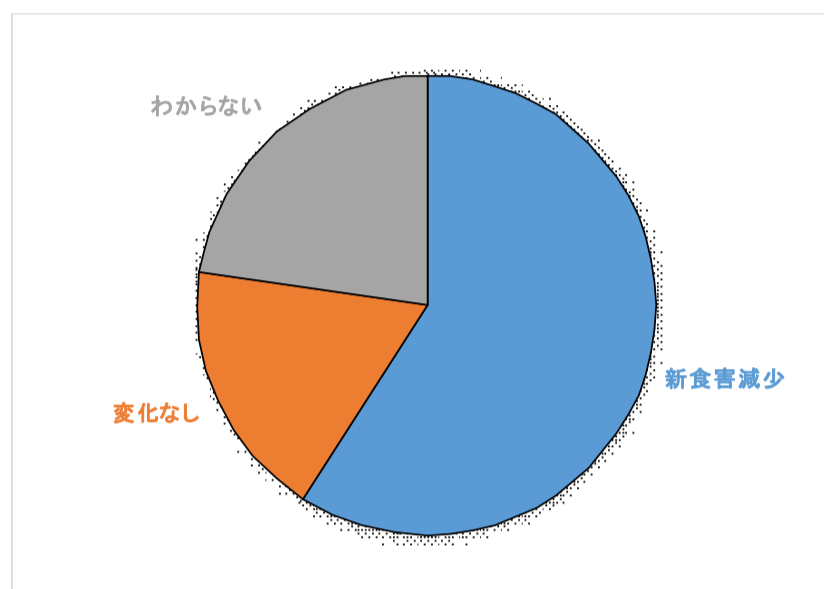
交信かく乱、薬剤防除、伐採を総合的に実施するための啓発資料

## 普及活動の成果

- 1 地域JAの7生産組合等が交信かく乱防除技術に取り組み、102戸の農家、56.6ha（達成度113%）で実証ほが設置されました。
- 2 併せて、生物薬剤防除に42戸（達成度102%）、縮伐、伐採に42戸（達成度102%）の農家を取り組みました。
- 3 また、バイオセーフによる生物薬剤防除については、共同防除体制がとられました。
- 4 農家アンケート（大津、松茂地区ナシ農家50戸）では、過半の方が「ヒメボクトウの新食害が減少した。」との回答がありました。



生物農薬バイオセーフによる共同防除の指導風景  
（JA板野郡北島支所にて）



ヒメボクトウ被害の状況  
（大津・松茂地区のナシ農家50戸のアンケート調査結果）

### 用語説明

- 交信かく乱技術：交信かく乱剤（昆虫の交尾行動を誘起する性フェロモンと呼ばれる化学物質を利用した薬剤）により交尾を阻害し防除する技術。  
この剤は直接虫を殺す効果はないが、雄成虫は雌成虫が配偶行動のために出している性フェロモンを認識しづらくなり、同じ種の雌成虫を発見することを妨害し、雌成虫の交尾の機会が減り、子孫の数を減らす効果があります。
- 生物農薬：有害生物の防除に利用される、拮抗微生物、植物病原微生物、昆虫病原微生物、昆虫寄生性線虫、寄生虫にあるいは捕食性昆虫などの生物的防除資材のことで、「バイオセーフ」は昆虫寄生性線虫資材に分類されます。

## 今後の発展方向

- 1 ヒメボクトウの交信かく乱技術等の総合防除の広域的取り組みについては、国補IPM事業を活用して推進しており、平成28年度以降の継続実施について関係機関と調整しています。

## 関係者からの声

- 新食害が減少した。
- 折角始めた交信かく乱技術の広域的な取り組みなので、事業も3年間は継続できるようにお願いしたい。（広域実証への参加農家）

## 高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922